

## 命の先生

小学四年 安田 彩乃

命には、心を落ち着ける、不思議な温もりがある。私はそれを、動物から教えてもらった。

私の家族には、たくさんの動物がいる。ハムスター、文鳥、アカハライモリ、それにねこ。私はそれぞれのお世話を毎日がんばっている。動物たちはとてもかわいいけれど、大変だなと思うことも多い。つかれている時や、宿題が多くて終わらない時、体調が悪い時などは、お世話をするのがおっくうになることもある。でも、自分の心をふるい立たせて、お世話をする。お世話をしたその先に、楽しいふれあいが待っているからだ。

それぞれの動物は、体重が全然ちがう。ねこは三キロもあるけれど、ハムスターは三十グラムしかない。文鳥は二十グラムほどの大きさだし、アカハライモリはスプーンよりも軽いほどだ。でも、どの生き物にも、それぞれに温かさや楽しさがある。ハムスターを手のひらに乗せると、前足を動かしてえさを食べ始める。この時、自分の手をくすぐられているようで、私は思わず笑ってしまう。ねこをだきかかえると、やわらかい毛のおくで、ドクンドクンと命の音がする。文鳥が

私の手をつつく時は少しいたいけれど、時計のはりが動くようにリズムカルで面白い。アカハライモリが水の中を自由に動き回る様子を見ると、私も冷たい水の中で気持ちよく泳いでいるような気持ちになる。たくさんの動物が、私に命の不思議と大切さを教えてくれる。

私は、動物たちにふれると、心がほっとする。その日一日のつかれがほぐれて、かたの力がぬけるような気分になる。たくさんの家族に囲まれて、私の毎日はとても楽しい。動物たちは、私にとって「命の先生」だ。命の温もりを教えてくれる家族とともに、私はこれからも、毎日を元気にすごしていきたい。